

第5回 外国人来訪者等が利用する施設における避難誘導のあり方等に関する検討部会 議事要旨 (案)

1 日時：平成29年9月21日（木） 10時00分から12時30分まで

2 場所：スクワール麹町 3階「錦華」

3 出席者

【部会員】小林部会長、野村副部会長、川内部会員、行田部会員、廣井部会員、石中部会員、岩切部会員、荒川部会員、古泉部会員、小林部会員、西尾部会員、町田部会員、伊藤部会員、鈴木部会員

(代理出席) 一般社団法人日本ホテル協会 橋本様、千葉県消防局 田端様

【講師】 弘前大学人文学部社会言語学研究室 佐藤教授

【事務局】 鈴木課長、山中課長補佐、塩谷設備専門官、千葉違反処理対策官、四維設備係長、桐原係長、諸田事務官、大矢事務官、吉岡事務官、木村事務官

4 配付資料

資料5-1 WG中間報告 (ガイドライン全体の構成イメージ)

資料5-2 WG中間報告 (「やさしい日本語」の活用について)

資料5-3-1 WG1 中間報告

資料5-3-2 WG1 の今後の取組について

資料5-4-1 WG2 中間報告

資料5-4-2 WG2 の今後の取組について

資料5-5 訓練の実施について

参考資料5-1 外国人来訪者等が利用する施設における避難誘導のあり方等に関する検討部会 部会員名簿

参考資料5-2 情報伝達・避難誘導のメッセージ等検討WG委員名簿

参考資料5-3 情報コンテンツ集及び教育・訓練プログラム検討WG委員名簿

参考資料5-4 外国人来訪者等が利用する施設における災害情報の伝達・避難誘導に関するガイドライン骨子

参考資料5-5 ガイドライン骨子における基本的な考え方

参考資料5-6 「やさしい日本語」作成のためのガイドライン

参考資料5-7 「放送設備の設置に係る技術上の基準の運用について (平成6年2月1日付け消防予第22号)」改正 (案) (新旧対照表)

参考資料5-8 (仮称) 外国人来訪者等に配慮した火災時等の情報伝達・避難誘導を目的とするデジタルサイネージ活用指針 (案) 【9月21日時点版】

参考資料5-9 施設の防火・防災対策などに関する情報コンテンツ集 (例) (案) 【9月21

日時点版】

参考資料 5-10 外国人来訪者や障がい者等に配慮した情報伝達・避難誘導に関する教育・訓練プログラム（案）【9月21日時点版】

参考資料 5-11 障がい者等関係団体ヒアリング

5 議事

- (1) WG中間報告について
- (2) 訓練（実証実験）の実施について
- (3) その他

6 主なご意見（○：委員発言 ▲：講師発言 ●：事務局発言）

【ガイドライン全体の構成イメージについて】

事務局より、「資料5-1」を説明。

【「やさしい日本語」の活用について】

事務局より、「資料5-2」を説明。

弘前大学佐藤教授より、「やさしい日本語」について説明。

- 「やさしい日本語」での伝達において、肉声で伝える場合と通信機器やメガホンを使って伝える場合とで伝わり方に差はあるか。例えば、スピーカーの音質が悪い場合でも伝わるような工夫はあるか。
- ▲ 現在ではそのような知見は無い。
- 施設の方が「やさしい日本語」を使うためには、ガイドラインにテンプレートを載せるのと、「やさしい日本語」のチェックリストや作成ルールを載せるのとどちらが望ましいか。
- ▲ 安全な場所まで避難誘導するという今回のような取組みでは、いくつかのテンプレートを用意しておく方が施設の方に受け入れられるのではないか。

【WG1中間報告・今後の取り組みについて】

事務局より「資料5-3-1」、「資料5-3-2」を説明。

- 放送設備の音声警報メッセージについて、資料では「日本語と英語の2か国語を原則」としているが、「やさしい日本語」を選択した場合など、日本語のみという選択肢もあるのではないか。

- 資料中では表現できていないが、日本語のみ放送することも想定している。
- デジタルサイネージについて、「重要な情報は上部に表示」としているが、視覚障害で視野が狭い方は自分の目の高さに表示されなければわからないため、単に上部に表示すればよいというものではない。
- デジタルサイネージの背景色は白黒反転表示としているが、ディスプレイの場所を知らせるためには画面全体が明るいほうが良い。また、背景色が明るく、白抜き文字が見えにくいように感じるため、背景色の彩度を検討する必要があるのではないか。
- デジタルサイネージについて、資料のような詳細な情報を入力して表示することは現実的ではないのではないか。
- コンテンツは事前に作成してあるデータを表示することを想定しており、火災時に表示内容を入力するものではない。
- デジタルサイネージで避難誘導する際、危険な方向に誘導してしまうおそれもあるのではないか。
- 発報した感知器の場所に応じて避難方向を指示するというシステムは、実現困難な点があるため現時点では想定していない。現状設置されている誘導灯・誘導標識の誘導表示を補助するというイメージである。

【WG 2 中間報告・今後の取り組みについて】

事務局より「資料5-4-1」、「資料5-4-2」を説明。

【訓練の実施について】

事務局より「資料5-5」を説明。

- デジタルサイネージが視覚障害の方にどのように見えるか等、訓練では障害を持った方や高齢者にも参加してもらうことを検討する必要がある。
- 現在関係団体と調整中であるが、できる限り実際に見ていただいてご意見をいただきたいと考えている。

以上